



体験や感動を通して、
東北を熱くする。
そんな存在になることが
私たちの目標です。

Closeup Interview

クローズアップインタビュー

米田 陽介氏

こめだ・ようすけ

©Rakuten Eagles

株式会社楽天野球団 代表取締役社長

プロフィール

1983年8月9日生まれ。
大阪府出身。2007年4月、楽天(株)入社。2019年4月、同社執行役員、同年11月、楽天モバイル(株)執行役員、2021年10月1日(株)楽天野球団取締役副社長を歴任し、2022年1月1日より現職。スポーツ全般が好きで、ランニングを日課とし、現在はゴルフの特訓中。

【概要】

株式会社楽天野球団

代表者 米田 陽介
従業員数 128人(取締役、派遣社員およびアルバイトを除く)
事業内容 プロ野球チーム「東北楽天ゴールデンイーグルス」の運営、ほか関連事業を行う。
所在地 仙台市宮城野区宮城野2-11-6 楽天生命パーク宮城
TEL 050-5817-8100
HP <https://www.rakuteneagles.jp>

― 社長就任までの経緯をお聞かせください。

三木谷浩史オーナーから「新しいチャレンジをしてみないか」という話があったのが2021年夏ごろです。そんな機会をいただけること自体ありがたいと思いい、「頑張ります」と即答しました。球団社長になるという事実を知ったのは、その後です。「ちなみに何のチャレンジでしょうか」と聞いたところ、「野球。でもプレーする方じゃないよ」と言われまして(笑)。それまで私は、野球と全く関係のない楽天モバイルという通信業界にいましたし、このお話をいただく前に、三木谷オーナーと野球の話をしたことは一度も

Closeup Interview

選手たちのパワーの源は、
観客の皆さんの応援です。
ぜひスタジアムへお越しください。

ありませんでしたので、あまりにも突然の話に、本当に驚いたというのが正直なところ。また、私自身、野球好きの父親の影響もあって、子どもの頃、野球のクラブチームに入っていた経験はあるものの、特に野球がうまいわけでも詳しいわけでもありません。そんな人間が社長になって大丈夫なのだろうかと思ったのも事実です。それを三木谷オーナーに相談したところ、「プレーは石井一久監督を頼って、球団経営にしっかりと取り組んで、チームをサポートしてほしい」という言葉をいただき、今日に至っています。

就任にあたっては、立花陽三前社長からも、プロ野球団というものは非常に公共性の高い事業であり、「お客さま」とひと口に言ってもさまざまなステークホルダーがいらっしやるので、「それぞれの視点に立って物事を考えることが大事」というアドバイスをもらいました。ファンをはじめ、仙台商工会議所の鎌田宏会頭が会長を務めてくださっている楽天イーグルス・マイチーム協議会の皆さんや、スポンサー企業の皆さん、宮城県、仙台市、球団職員とたくさんの方々にご支援をいただいています。その思いを理解すること



試合前後の演出も含め、「ここに来て良かった。また来たい」と思ってもらえるような体験を提供していきたいと考えています。おもしろいアイデアがどんどん出てきていますので、楽しみにしててください。

― 仙台・東北に拠点を置く球団としての地域との関わり方について、お考えをお聞かせください。

「東北」を冠として掲げる唯一のプロスポーツチームですので、東北の代表でありたいという思いがあります。2013年にはリーグ優勝・日本一を果たし、

が前提にあるということを覚えていただいたので、私もその点をしっかり意識しながら引き継いでいきたいと思っています。

― ウイズコロナ時代の経営に対するお考えについて、お聞かせいただけますか。

スポーツ業界に限ったことではありませんが、今後は感染症対策と経済活動のバランスが最大のテーマであると認識しています。新型コロナウイルスは確かに恐ろしいものです。しかし、恐れるあまり行動を必要以上に制限すると経済活動が停滞してしまいます。これも恐ろしいことです。ですから、新型コロナウイルスを正しく恐れ、正しく対策をしていくことが大切であると思っています。

私は、2020年10月に弊社副社長に就任してから、スタジアムで試合を観戦したり、スポンサー企業の皆さんとお話をさせていただいたりしてきました。その中で強く感じたのは「自分が実際に体験すること、体感したものを大切にしていきたい」ということです。多くの方は、楽天という企業に対して、どちらかというとテクノロジー優先の先進的なイメージをもたれていると思いますが、実はそれ以上に人間の「五感」を大切にしているのです。なぜなら、どれだけテクノロジーが発展しようとも、最終的には「心」が大切だと思っているからです。ですから、今季は「人と人との一体感の創出」をス

タイーグルス 未来塾」なども支援していただいております。大変感謝しています。今後も、このような取り組みを通じて地域の皆さまに楽天イーグルスを愛していただけるよう、活動を強化していきたいと考えています。

― 2022シーズンのスローガン「譲らない!」に込めた思いと今後の抱負をお聞かせください。

今回のスローガンは、石井監督が昨年1年間、監督を務めて感じたことを踏まえ、石井監督自身の強い思いでこの言葉を選び、決めました。チームの勝利にかけると強い思いに私も共感しています。

また、このスローガンは、チームとファンをひとつにする、強くする合言葉でもあります。私たちは、チーム、ファンとともに「この勝利は譲らない!」という思いで試合に挑むことが、9年ぶりの優勝に結びつくと思っておりますので、この合言葉を胸に、ともに闘い、東北を熱くしていきます。

監督や選手にとって、一番のパワーの源となるものは観客の皆さんの応援に他なりません。スタジアムでは感染症対策を徹底して行っていきますので、ぜひ、試合に足を運んでいただき、人と人との一体感を皆さんの五感で体感してください。

【2022年1月12日取材】



2021年12月4日に開催された「ファン感謝祭2021」の様子。当日は、「Ballparkで会いましょう」をテーマに、フィールドに入れるイベントや、選手と直接触れ合えるイベントを実施し、来場した10,971人のファンを楽しませた。

タジアムのテーマにしたいと考えています。スタジアムは、五感の全てで心が揺れ動く場所です。観客の皆さん同士の間、選手と観客の皆さんとの一体感、スタジアムでスポーツを見るからこそ味わえる臨場感や醍醐味は、その場にいなければ感じることはできませんので、昨年同様、徹底した感染症対策を継続して実施していきながら、この2年余りのコロナ禍で失われた体感していただける機会を、工夫しながら取り戻していきたいと思っています。

― 「一体感を生む取り組み」とは、どのようなものになりそうですか。

具体的なお話は現在、スタッフみんながアイデアを出し合っているところです。

より良い環境をめざす。

青葉環境保全 AOBA

〒984-0037 仙台市若林区蒲町19-1 TEL 022(286)3161(代)